

祝 国・文部科学省事業に指定

四国の最西端・愛媛県伊方町にある佐田岬半島は、西南西に約40kmにわたって伸びた日本一細長い半島。独特な地形（リアス式海岸や長い砂浜）が生み出す自然は四季を通じて様々な表情を見せてくれます。三崎高校はそんな場所にあります。



高校魅力化に弾み

愛媛県立三崎高等学校ではこの度、文部科学省が定める「令和元年度・地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に指定された。国が基盤的教育改革推進事業には地域魅力アップ・グローバル型・プロフェッショナル型があり、そのうち地域魅力アップに指定された本校は、全国指定校の数を増やした。本事業の研究開発テーマを「みさこう・せんたんプロジェクト」佐田岬半島・地域デザイン人材の育成としており、5年前より活動を進めてきた。田村(若)教諭(初)は活動し始めた1年、外部のプロジェクトデザイナーと出合ったのが、この事業の推進で、3.0の段階まで引き上げ、半島や高校の魅力をもっと広げたい」としている。

三崎高校

愛媛県立三崎高等学校
〒796-0801
愛媛県西予郡伊方町三崎511
TEL:0894-54-0550

WEBサイト
facebook

せんたん新聞

愛媛県・佐田岬半島 愛媛県立三崎高等学校

みっちゃん大福 全国大賞



本校と伊方町(二名)の田村(若)教諭が共同で開発した「みっちゃん大福」が「こんなのあるんだ」大賞(2019年)で全国大賞に輝いた。愛媛新聞社など全国の地方紙が運営する通販サイト「コレコレ」にも取り上げられる。実行委員会主催で、3万6千円の商品の中から大賞に選ばれた。受賞後、本校生(2019年)にも感謝状を贈り、中村(若)教諭(初)は「これからは、生徒の成長を促すだけでなく、地域の発展を促すこともしていきたい」と話した。

分校化を回避!

全国から入学志願者の見学相次ぐ

少子化の傾向を受け高校入学者が伸び悩む中、本校はここ数年、伊方町にありながらも、全国的な注目を集めている。入学者が全国から続々と見学に来る。その中には、分校化を回避する目的で、本校に入学を希望する者もいる。入学希望者の増加が、本校の魅力を高めることにつながっている。

エシカル甲子園 全国2位

人々の環境、地域に貢献した取り組みや、消費行動、購入といった倫理的な活動(エシカル)を表現する活動。エシカル甲子園2019(2019年)で、本校が全国2位の成績を挙げた。主催は、消費行動、環境教育委員会(初)が主催した。



速報!

令和二年度・入学志願者が昨年より**倍増**。定員超える。(2020年2月25日現在)

おもな総合学習 地域研究プログラム

- [みさこうマルシェ] の開催
- [みさこう体操 115] の開発・活動
- [ブイアート] ワークショップ等
- [地域防災の] 研究
- [あいたおる] [製織リッシュ] 等の商品開発
- [全国高等学校小規模校サミット (山形)] への参加
- [SR サミット (京都)] への参加
- [えひめ地域づくりアワード・ユース 2019] への参加
- [みっちゃん大福] の販売・PR 活動
- その他・各種地域イベントへの参加

ローラ!!!

えっ!? N.Y. からローラが転校校!?



ローラさん、女性が発見の毛を染める際につかう「リッシュ」が面白いんじゃないかと、と海外から来たローラさん(17)が、本校に転校した。転校理由は「目が覚め、眼に染めたい」というのが理由。ローラさん、本校には「ローラさん」があるのか、と聞かれた。ローラさんは「ローラさん」という名前を聞き、驚き、涙を流して「ローラさん、転校していいですか?」と尋ねた。



みさこうのみんなとローラさんで、パシャッ!

私はせんたん部で活躍する先輩方の姿がかっこよかったのでせんたん部に入りました。せんたん部では私はチラシやTシャツのロゴのデザインを考えることが多く、自分の得意分野を活かされて楽しかったです。また、イベントの様子を動画や写真で記録する役割の時はイベントに参加してくれた人達の表情を撮るのがすごく好きでした。

また、学校のたくさんの人の話を聞いたり、大人の人と関わったりは貴重な経験だと思います。高校生のうちからそういう経験ができたのはせんたん部に入ってからだと思います。ただ、私はコミュニケーションが苦手なので外部の人との話が通じにくかったのを後悔しています。イベントでは周りの雰囲気にならざるを得ないことも多々あり大変でした。

せんたん部は学校の総合の顔の先頭をゆく存在のような感じで表に立つことが多いので、入るのを躊躇ってしまう人もいますが私にもありません。でも、私のように人と話すことやプレゼンなどが苦手な人でも活躍できる場はあるのでぜひせんたん部に入ってみたいと思います。三崎高校の活動は胸を張れるものだと思います。そんな活動を率先して企画できるせんたん部に所属できたことに感謝しています！2年生後半からの約1年半、お世話になりました。



3年 土居 巳恭

私は元々、「みさこ体操115」という体操の普及活動をしていました。その活動を通して地域おこしに興味を持ち、3年生になってせんたん部に入りました。体操部に入っていた時よりも、もっと地域に入り込みたい活動ができるようになりました。活動している時に、地域の方が笑顔になってくれるのを見ると、やって良かった！っていつも思います。初めは「さっさとこんど田舎から出て都会に住みたい」しか考えていなかった私ですが、将来はこの地元をもっと盛り上げたいと思うようになってきました。みなさんもLet's地域おこし！



3年 増川 みな美

私がせんたん部に入った理由を語る。僕も・イベント・商品開発の3つに分けており、活動内容を聞いた上で過去法のような感じでイベントを選んだ。次にダンスとせんたん部の選択になり、ダンスはできないという理由でせんたん部に入った。最初は本当に過去法のような感じだったのだが、今は入ってとても良かったと感じている。

せんたん部に入って校外の方と話す事が沢山ある。この場所を探すための活動を地域の方や状況の似ている他校の活動を聞くことにより地域の問題と解決策を知ることができる。そして、活動の発表を行うために校外まで行くことがあり、行く機会のない場所に行けて私は嬉しい。という事でせんたん部に入ってから自分の殻を破り大変ではあるが悔いのない生活をしている。



2年 酒井 颯斗

私がせんたん部に入った理由は2つあります。1つ目は先輩方への憧れです。先輩方のプレゼンやイベントの姿を見て、私も先輩方のようにになりたいと思ったからです。2つ目は地域おこしの活動に興味があったからです。中学生の時に似た活動をして地域が好きだと再確認しました。故郷を知りもっと盛り上げたいと思います。

楽しいと思うことはイベントの企画です。自分たちで考えるのはとても楽しいし、様々な案が出てくるので面白いです。大変なこととは、限られた時間の中で考えたことを形にしたいということ。部活との両立でなかなか時間がなくてそれが大変です。これから故郷のためにもっと頑張っていきたいです。



1年 古澤 美咲

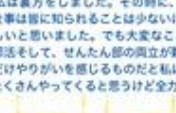
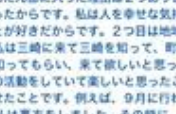
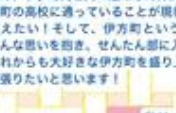
私がせんたん部に入ろうと思ったのは、自分も三崎おこしのために何か手伝いたいと思ったからです。人口が減りつつある三崎を、なんとかして盛り上げたい、そんな思いで入ったせんたん部で大変だなと思ったことはイベントの企画です。イベントを開催するために話し合いをするのですが、僕はあまり良い意見を出さずでいてしまっている。なので、そうならないために今後の話し合いではなるべくどんなことでもいから発言するようにしたいです。でも、楽しいこともあり。それは、他の班と協力してイベントの準備を進めていくことです。2月15日、16日に大久であったイベントのために旗を作ったり看板を作って作りを手伝ったのですが、そこでは自分が必要とされる感じがして、とても嬉しかったし楽しかったです。4月からは2年生になるので地域のためにしっかり貢献していきたいです。



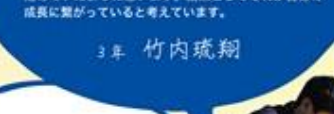
1年 大石 怜生

平成29年度に立ち上がり、特色ある地域おこし活動で地元・伊方町を盛り上げようと奮闘する「せんたん部」その実像に迫ります。

『せんたん部』がゆく！



せんたん部として2年間活動してきて得たものは少なくありません。第一に、地元のことを深く知るきっかけになりました。そしてそこから、課題の解決には対象の分析が重要であることを学びました。今思うと、私は地域を活性化するためというよりは、何かしら自分を成長させられるかもしれないという視点でせんたん部に参加したように感じます。しかし、地元の課題とそれを乗り越えることの必然性を知り、ああでもないこうでもないと言いつつ必死の作戦に情熱する中で、いつの間にか地元への貢献を重視し始めていたように思います。結果としてそれが自身の成長に繋がっていると考えています。



3年 竹内 琉翔

高校に入学したばかりの頃、あまり人前に出ることが得意ではなく、好きでもありませんでした。別に、自分がやらなくても誰かがやってくれると考えていたからです。でも、VYS部(ボランティア部)に入ってから様々な地域イベントに参加したり、生徒会やせんたん部に入ってから話すことが増えたり、少しずつですが人と話したり、自分の意見を言葉で伝えることの楽しさを感じられるようになりました。このように感じられるようになったのは、多くの人と繋がりを持つことができたからだと思います。たくさんの人が、声を掛けてくれたおかげで私は成長することができました。だからこそ、今度は自分が誰かに声を掛けて、支えられる存在になりたいと思っています。また4月からは別の大学に進学するので、新たな繋がりも作ってみたいですね！



3年 阿部 静香

私は、生まれたときからみさこが町、伊方町に住んでいます。しかし、私の住んでいる地域からみさこがまでは車で片道30分、そのため、中学時代に過ごした仲間のほぼ全員がみさこがより近い、隣の高校に通っていることが現状です。「このような状況を少しでも変えたい」として、伊方町という町をもっと元気にしたい！、そんな思いを抱き、せんたん部に入部しました。これからは大好きな伊方町を盛り上げるべく、また、一地域民として頑張りたいと思います！



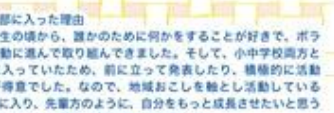
2年 楠 彩葉

私は、高校入学を機に三崎に引っ越してきました。最初の頃は地域おこしなんて全然興味がありませんでした。でも学校生活を送る中で、三崎高校と地域おこしは強いつながりがあることに気づき、少しずつ活動に興味が出てきました。せんたん部の行っていい活動にも参加するようになり、三崎にも馴染めました。せんたん部は私に変わるチャンスと大きくくれました。人見知りだった私も、自分から行動できなかった私も、せんたんの活動を通して変わりました。自分を育ててくれた学校だから、地域だから、未来に残していきたい今地域おこしを頑張っています。卒業まであと残り1年。高校生として活動できるのはこれだけですが頑張っていきたいです。そして、将来もっとたくさんの経験を積んで帰ってきたいと思っています。



1年 大西 友海

私がせんたん部に入った理由は2つあります。まず1つ目は人の笑顔を見たかったからです。私は人を幸せな気持ちにしたり、笑顔にさせた方が好きだからです。2つ目は地域を盛り上げてみたかったからです。私は三崎に来て三崎を知って、町外の人たちにもっと伊方町の魅力を知ってもらい、来て欲しいと思ったからです。私が今でもせんたんの活動をしていて楽しいと思ったことは、裏方についてみんなを助けたことです。例えば、9月に行われた第3回せんたんミーティングで私は裏方をしました。その時に、裏方の楽しさを知りました。裏方の仕事は知られることは少ないけど皆のためにするのが好きだから楽しいと思いました。でも大変なことが多くあります。それは、勉強と部活をして、せんたんの両立が難しいことです。でも大変だけれどそれだけやりがいを感じるものだと私は思います。これからも大変なことがたくさんやってくると思うけど全力で頑張ります。



1年 近藤 聖紀

●せんたん部に入った理由
私は、小学生の頃から、誰かのために何かをすることが好きで、ボランティア活動に進んで取り組んできました。そして、小中学校両方とも生徒会に入っていたため、前に立って発表したり、積極的に活動することが得意でした。なので、地域おこしを軸とし活動しているせんたん部に入り、先輩方のように、自分をもっと成長させたいと思うようになり、せんたん部に入ることを決めました。

●活動をしていて楽しいこと、大変なこと
せんたんミーティングや、はなはな祭り等様々な活動を通してたくさんの人達の笑顔を見る機会が増えました。それが今の活動をしていて楽しいことです。そして、大変なことは、1年生の途中から参加したので、今までできてきた活動を理解するのが大変で、なかなか会議に参加できなかったり、「ボカン」としてしまっていることが多かったです。

初代せんたん部 部長1/2が語る！

平成29年度卒業 垣内麻里



卒業生
垣内麻里 先輩

垣内麻里さんに聞きました。

今のせんたん部に就かざるまっかたになったのは私が高校2年生の頃に参加した「地域に生きる先輩」とともに歩いた「高校生実践事業」のプロジェクト「アートプロジェクト」です。高校の部活動は2期に1回、行事を多様な観点から見つめ、1つの考えにとらわれることなく全員が納得し、理想とする考えを突き出せて進めさせやその重要さを学びました。

この経験に参加してたくさんの人から刺激を受けたことにより、進路が選べる自分の地域を自分たちの力でどうにかできたいのかと感じるようになったんです。そして、その思いを形にするためにもっと「M・S・A・K・I」というプロジェクトを立ち上げたいと考えました。これが三崎高校が地域活性化のために取り組む活動の第一歩になったと聞いています。このプロジェクトには、

先輩を知ってもらい、実際に足を運んでもらいたい！という思いが込められており、それを実現するために三崎高校を中心となり様々な活動が始まりました。その活動の中でも特に「課題解決型アートプロジェクト」と「せんたんミーティング」は後に三崎高校が更に地域活性化に力を入れるようになったきっかけなのではないかと私は思います。

「課題解決型アートプロジェクト」は初めて企画から運営まで自分たちで行ったイベントです。企画の時には思いもよらなかった手順や課題がかってしまったり、想像通りのものを仕上げることが難しかったりと実際にやってみなければ分からないようなことがあったり、大変な思いをしました。たたくさんの力を借りて、先輩たちの力を借りて、また自分不足だった自分の改善点が見つかり、企画の段階からもっと具体的に考える必要があると実感しました。このイベントから学んだことを忘れず、自分自身もレベルアップさせたいという気持ちで取り組もうと思いましたが、その後大きな活動が「せんたんミーティング」



プロジェクトデザイナー・渡辺也さん、経歴簿 (2017年10月)

です。この「せんたんミーティング」は今も私たちの先輩が引き継いで開催しているイベントです。プロジェクトデザイナーの方に協力いただき、自分たちが考えているものや考えをスプレッドシートという目的からこのイベントが生まれたこと、運営スタッフ、参加者、地域の方々などたくさんの方々が協力してくださった方、とても大きなイベントとなり喜びもたくさんありましたが、「課題解決型アートプロジェクト」で得たものを活かして自分たちの力をすべて出し切りたいという思いがありました。自分たちができると信じていることを、もう一度感じたいです。

最後にいまのせんたん部へのメッセージです。

まだまだ三崎高校の先輩は始まったばかりです。私たちがやっていたことよりも更にレベルアップし、最終的には地域活性化活動のお手本になれるようこれからも活動を続けていってほしいです。

せんたんミーティング 第3回

今週で第3回目の開催を迎える「せんたんミーティング」。愛媛の高校から4校、高知の高校から1校、本校のおおむね1校が参加し、盛り上がり、かたり・かき・さびまします！

せんたん劇場 第二回

全高校生を対象に校内外問わずに活動した「高校生を舞台に据えて」をコンセプトに、各校各団体の持ち場を確保し、人々を魅了する。

外部の高校生・大学生との交流や、クリエイターなど普段は出会えない「オトナたち」と出会う中で、生徒たちは目覚ましい進化を遂げています。2020年2月の「せんたん劇場」では、集落の「生の現場」で、生徒たちがみる成長する姿を目にしました。学びと実践が同時進行する我が校は、これからますます面白くなっていくと感じています。

地域協働員
せんたん部顧問
河野雄太 先生

おもな外部講師陣

プロ講師をはじめ、高知大、京都造形芸術大、愛媛大などの大学生が、授業のサポートをしてくださいました。



初代せんたん部 部長2/2が語る！

平成29年度卒業 西川清也

西川清也さんに聞きました。

2018年のある日のこと、3名の生徒が選ばれ「三編おとし」の発表をしなければならなくなった。その当時、証書がたいやんを保持していたレジーナ・津田先生に選ばれた僕は、仕方なく引き受け、発表は「今更だにたかか」と簡単に考えたが、思いのほか好評で、その後活動や発表を続けることになった。

最初は2人だけだった小さなチームは、気づけば10人程度となり、大きな組織になっていた。その組織の名前は、レジーナ・津田先生によって「せんたん」と名付けられた。(へ)のちに特別講師で来てくれたプロジェクトデザイナーの西田さんがレジーナ先生に耳打ちしていたことがきっかけだった。

最初は単に観望参加だったこの活動は、やっつけているうちに「みんなと活動できる」「地元を知ってもらいたい」という気持ちが加わり、気づいて自分からやるようになっていた。中でも一番印象に残っているのが「第一編



卒業生
西川清也 先輩

最後にいまのせんたん部へのメッセージです。

せんたん部では、活動の幅が広がって、宣伝活動の力も入るようになっていて、と聞いています。西川清也さん、このまま成長して欲しいです。西川清也さん、このまま成長して欲しいです。西川清也さん、このまま成長して欲しいです。

大西純先生



- Q1 校歌で好きなところはどこですか？
4番の「三崎の夜明けはほのぼのと」
- Q2 本校卒業生の大西先生に聞きます。いまと昔の違いは？
先生が学生の時もそうだけど「本当に勉強しないな〜笑」と思いました。でも、真面目で身だしなみ等、指導していてもスムーズで素晴らしい！今後はもっともっと挨拶ができて、礼儀正しい学校にできたらいいなと考えています。
- Q3 三崎高校で大変に感じることはありますか？
大変に感じることは無いです。小規模校で指導できることがなにより幸せです！吹奏楽部の顧問としても、成長を近くで見守ることができて嬉しく思っています。
- Q4 校舎で不便に感じることはありますか？
「トイレ！！！！」。面白い洋式トイレにしてほしい(笑) ずっと事務の方にお断りしていますが、特別な理由がないと断りづらい、今でも改善中です(笑)



高校時代の純先生 (かぬいい！)

近本優大先生



- Q1 三崎高校の好きなところはどこですか？
ん〜気兼ねなくストレスなく過ごせるところですかね〜。仕事だけドブイイベントのような感覚。
- Q2 ストレスなく過ごせる理由はなんですか？
先生や生徒と良い関係を築けているところですかね！まあ自分が思っているだけかもしれませんけど(笑)
- Q3 先生はサイクリング活動がそうですが、伊方町で好きな景色などありますか？
朝陽いうちから走っているのが、旧瀬戸町の川之浜地区と大久地区の間くらいで、ちょうど高から朝陽が出て来るんですよ！それがめっちゃくちゃ綺麗です。その時は、つい立ち止まって写真を撮ります。あとはやっぱり灯台かな〜。どの瞬間で撮っても綺麗で、撮影が楽しいです。
- Q4 三崎高校生(みさこうせい)の好きなところは？
日々成長していく姿ですかね〜。中学の時不登校だったり、受験が上手くいかなかったりして入学した生徒が変化していく姿が好きです。なんていうか、純粋でいい子で素敵な生徒が多いです。接していて気持ちがいいです！



オスメの風景 (撮影:近本優大)

先生の本音に迫る!!

生徒寄宿舎・速水寮の紹介

三崎高校の校舎から約15分ほどのところにある寮(速水寮)は、男子10名女子9名の計19名が生活している。令和2年2月現在、速水寮の近くには、教員住宅があるため、何かあったらすぐに先生に駆けつけたり、寮で食べたご飯をお土産に分けたりしています。先輩後輩の距離が近い三崎高校の速水寮の生活はどのようなものなのでしょうか。三崎高校の速水寮の生活はどのようなものなのでしょうか。三崎高校の速水寮の生活はどのようなものなのでしょうか。



2019年速水寮の様子

部活動・吹奏楽部の紹介

本校にはさまざまな部活動がありまして。男子バレーボール部、空手道部、男子卓球部、女子卓球部、テニス部、軟式野球部、吹奏楽部、VYS部、芸術同好会、国際研究同好会、記念すべき第一号です！吹奏楽部を紹介しましょう！

皆さんは知っているでしょうか。三崎高校吹奏楽部です。私たちが吹奏楽部は、3年生8人、2年生4人、1年生2人、計14人、顧問は大西純先生と毎日楽しく活動しています。

小さい子どもからおじいちゃんおばあちゃん、幅広い年齢層に知られている吹奏楽部は、プロバスケやトポールオリンピックなどの試合のハイライトに演奏されているのを見たいと思います。毎年、地域のイベントに参加させてもらっています。吹奏楽部は、3年生8人、2年生4人、1年生2人、計14人、顧問は大西純先生と毎日楽しく活動しています。



「佐田祥 Wonder Night」での演奏風景

津田一幸先生



- Q1 三崎高校の良さや好きなところはどこですか？
先生もやりたいことにチャレンジできるし、なにより面白いことができることかな。例えば、去年のマーマレード作りとか。僕は国語の先生だし、絵の切り手で遊んでみたかったのに生徒に声をかけたら、協力してくれて〜そんな風に自由にできるのって三崎高校ならではのところやと思う。
- Q2 三崎高校の生徒にとって良いと思うところはなんですか？
ん〜、全員に出番があること！3年間で絶対面白いことがあるところかな。少人数だからこそ一人一人が大切やし、活躍できる場面が他の学校より多くさんあると思う。
- Q3 三崎高校に足りないものはあると思いますか？
細かく言うたらたくさんあるけど、特に足りないのは、時間、場所、人手、このへんかな。
- Q4 新聞を読んでいる方にメッセージを！
この規模でこんなにたくさんの活動をしている学校はないと思います。先生も生徒も楽しい学校でどこを見ても楽しい学校です！

ありがとう、大川先生。

2019年3月10日、突然の訃報。この記事は、大川光基先生と関係があった羽田智紀先生のSNS記事を転載しています。



羽田智紀 教諭

先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。

「先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。先生は、3年前最後の授業で「みんなの笑顔が私の誇りです」といって涙を流しながら話していました。



大川光基 教諭